碧水だより

○平成２０年　１月１８日発行第１０号
○阿蘇市立碧水小学校　文責　麻生廣文
○主な記事：新年のごあいさつ
碧水フェスティバル（１２／９）

学ぶ心　鍛う心　磨く心

明けましておめでとうございます　不易と流行・温故知新

清らかな碧水の心を育てるために

新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。本年もよろしくお願いいたします。

教育界では、一昨年の教育基本法の改正に伴い、昨年度は教育三法が改正され、引き続き「生きる力」の理念を大切にしながら、「豊かな心」「確かな学力」「たくましい体」のバランスのとれた子どもの育成を目指して、取り組んでいくことが明確になりました。

そのためには、学校教育はもちろん、社会教育・家庭教育が手を携えて、教育委員会の主体性のもとに、地域や学校の特色を最大限生かしながら取り組んでいく必要があります。そのような観点から、学習指導要領の改訂も進められています。

こういうことから、戦後最大の教育改革といわれています。教育改革といっても、新しさだけを追求しているものではありません。明治以降、学制が確立してからの日本の教育は世界に類を見ない、すばらしい発展と成果を上げてきた歴史があります。これら先人が築きあげた教育制度を根底から覆すものではありません。「不易と流行」や「温故知新」という言葉がありますように、大切なことは、古いことであってもしっかり受け継ぎ、柔軟に新しい考えを取り入れるべきことはしっかり取り入れた教育を進めるということです。

さて、こんなことを考えていましたら、左上に示した「出水兵児修養掟」（いずみへこしゅうようおきて）というものを三年ほど前に教えていただいたことを思い出しました。

鹿児島県出水地方は、薩摩藩の玄関口として、特に他国よりの侵略・進出に備える地域としての特色があります。地方郷士としていわゆる「武士」の身分を与えられ、農業を営みながら、有事に備えて普段から武士としての修行・修養に努めていたと聞きます。子どもたちは、未来からの贈りもの。その育成は、地域・家庭を存続させ、活性化させるもとになるものとして、いつの世でも大切だったのでしょう。

「武士は節義を嗜（たしな）みなさい。節義の嗜みとは、嘘をつかないこと。私心を持たないこと。心素直にして作法を乱さないこと。礼儀正しいこと。上位の者におもねることのないこと（気に入られようと振る舞わないこと）。下位の者を馬鹿にしないこと。他人の苦労を見捨てないこと。約束や承諾したことを違えないこと。甲斐甲斐しく、頼もしいこと。苟且（かりそめ）にも下品な賤しい話や他人の悪口をいわないこと。譬え話をすると、恥を恥と知り、首をはねられることになっても自分がしてはならないことをしないこと。命を賭ける場であれば絶対に引かないこと。其の心は鉄や石のように固いこと。また、温和で慈愛深く人に接し、ものの哀れを知り、人情深いこと。これらをもって節義を嗜むという。」

かなり意訳しましたが、概要はこのようなことでしょうか。

「出水兵児修養掟」は、次代を担う子どもたちに「節義を嗜む」人になりなさいという強い願いが感じられます。古い話でもあり、全部が現代に通用しないまでも、子どもをどう育てていくかという点でうなずく点が多くありましたので、ご紹介しました。

今年度も、これまでの碧水小学校のすばらしい伝統を引き継ぎながら、いじめ撲滅や特別支援教育、食育、就学前教育、キャリア教育など新しい教育課題にもしっかりと取り組んでいきたいと思います。しかしながら、これらの課題解決にあたっては、地域・家庭との連携がなくてはなしえません。とくに、昨今の社会状況から感じることは確かな学力を育むことはいうまでもありませんが、基本的な生活習慣をはじめ、社会ルールや道徳的な規範意識など、豊かな心を育むことが大切です。どう地域・家庭と学校が手を携えて育んでいくかにあります。皆様と連携を深め、それぞれの立場で状況に応じた教育活動を進めたいと思います。

ところで、新年早々の大学箱根駅伝では、周到に準備して臨んだであろう、三つの伝統校が途中棄権するという波乱がありました。何が起こるか分からない混沌とした社会情勢の中で、普段の力を出し切ることの難しさを改めて感じた次第でした。

新年にあたって、どのような事態にも対応できる徳・知・体のバランスのとれた子どもたちの育成をめざして、碧水小学校の伝統を大切にしながら、新しさの創造にも取り組んでいきたいと決意しました。

出水兵児修養掟

士は節義を嗜み申すべく候
節義の嗜みと申すものは　口に偽りを言はず　身に私を構えず　心直にして作法乱れず　礼儀正しくして上に諂らはず　下を侮どらず　人の患難を見捨てず　己が約諾を違へず　甲斐〻〻しく頼母しく　苟且にも下様の賤しき物語り悪口など話の端にも出さず　譬恥を知りて首刎ねらるゝとも己が為すまじき事をせず　死すへき場を一足も引かず　其心鉄石の如く　又　温和慈愛にして物の哀れを知り人に情けあるを以て節義の嗜みと申すもの也

碧水フェスティバルの全体の様子です。たくさんの方々においでいただきました。

熊本教育の日「碧水フェスティバル」

十二月九日（日）第２回碧水フェスティバルの開催。今年度は、熊本教育の日の事業の一環として、午前中は主に児童の学習発表会。午後は、地域の方々や保護者との触れ合いをメインにした体験コーナーの取組を行いました。特に、午後の部の体験コーナーでは区長会、地域老人会・食生活改善グループの方・保護者や有志の方々のご協力のもと、お手玉・炭焼き・風車制作・いきなり団子調理・読み聞かせの会・餅つき・竹細工（貯金箱・竹鉄砲）・生け花・こままわしなど、いろいろな体験活動をとおした触れ合いができました。

碧水フェスティバル（地域・保護者の方々との触れ合いの一日）

午前の部　学習発表会）

一年生（体育・国語）
「天までとどけ１・２・３」とばかりに、体育のマットや跳び箱の運動。そして、国語の「くじらぐも」の発表など、ダイナミックな活動ができました。

二年生（音楽）
「地球をひとまわり」の題名のもと、「ソラシドマーチ」「ともだちになるために」の二曲歌いました。いろいろな国の国旗が登場し、国際化社会を生きぬく子どもたちです。

三年生（社会・総合）
「ＴＡ・ＫＡ・ＮＡ」。阿蘇田園空間などの地域学習を続けてきた３年生は、伝統的・代表的な農産加工品のたかな漬けの学習をとおして学んだことを堂々と発表しました。

四年生（音楽）
「八木節」「ラ・クンパルシータ」と、日本の曲と西洋の曲を二曲演奏した四年生です。リズムを取るのが難しい曲ですが、見事気持ちが一致してすばらしい演奏でした。

五年生（総合・音楽）
総合の「碧水ＥＣＯプロジェクト」では、有用微生物菌（ＥＭ菌）を使った取組の発表。合奏「ジュピター」では神秘な宇宙の世界が澄んだ音色で表現されていました。

六年生（総合）
人権学習で、ハンセン病回復者の阿部智子さんの話の聞き取りをもとに、組み立てた劇と発表。見る人の感動を呼びました。阿部さんには十三日に劇を披露しました。

碧水キャラ　いどむー名人

碧水キャラクター　すらすらー名人

碧水小学校研究発表会のご案内

碧水小学校は、平成１８・１９年度国立教育政策研究所より学力の把握に関する研究指定を受け、国語科の「話すこと・聞くこと」における指導と評価の一体化を目指した授業実践や、指導方法の工夫改善をもとにした調査研究を進めてきました。
このたび、下記の日程で研究発表会を開催いたしますので、保護者の皆様はじめ地域の皆様もどうぞ、ご参観ください。

１　大会主題　「自分の思いや考えを伝え合う子どもの育成」
～「話すこと・聞くこと」における指導と評価の一体化～
２　期　　日　平成２０年２月２０日水曜日
３　日　　程　①オリエンテーション　１３：４５～１３：５５
②公開授業　１４：１０～１４：５５
１年１組「よくきいてあてよう・わたしはなんでしょう」古瀬英仁郎
３年２組「考えを整理してまとめよう・名前をつけよう」赤池　昌記
５年１組「目的に応じた伝え方を考えよう ・ 工夫して発信しよう」田上　邦宏
③全体会　１５：１５～１６：３５

５年１組　大研のひとこま

きくぞう名人

碧水っ子　学びの姿

運営委員会の人たちの進行でフェスティバルが始まりました。ユニセフ募金活動も進められました。

フェスティバルご協力のお礼

校区の皆様には、沢山の展示作品の出品やまた、当日の参加、体験コーナーのご協力など、大変お世話になりました。地域のお祭りをとおして校区民が触れ合いの時間を持つという所期の目的も達することができました。心よりお礼申し上げます。

野菜やギンナン、炭の販売を対面販売する６年生たちです

ＰＴＡによる楽しい合唱

ＰＴＡコーラス（合唱）
「ビリーブ」手話付き、「あわてんぼうのサンタクロース」打楽器演奏付きと難曲に挑戦。歌い終わっての充実感は最高でした。当然カラオケで盛反省会は、盛り上がりました

保育園児による元気なリズム遊び

黒川保育園（歌と踊り）
先生方によるアンサンブル「カスタネット四重奏」「ウルトラマン」園児によるリズムの演奏。メビウスの演奏。

阿蘇人権子ども会の太鼓演奏

役犬原太鼓
阿蘇市人権子ども会の演奏になり二年目となりました。今回初めて小学生だけの演奏に取り組みました。